

特集

いつ起こる かもしれない 地震に備えて

これまで、奈良県は比較的災害が少ない地域だといわれてきましたが、さまざまな災害に襲われてきた歴史があります。
災害は繰り返すといわれます。過去の災害を風化させることなく私たちの記憶にとどめ、災害の歴史から学び、今後の教訓としていかすことが大切です。今回は、奈良県で起こる可能性がある地震について知り、備えを確認しましょう。



7月9日、県内での一斉地震行動訓練のようす。

【土砂災害】
紀伊半島大水害
2011(平成23)年8月30日～9月4日

十津川村栗平の河道閉塞(崩壊土砂が河川をせき止めている)

【水害】
大和川大水害
1982(昭和57)年7月31日～8月3日

浸水した王寺町役場前を走るトラック
〔歴史から学ぶ 奈良の災害史〕より抜粋 写真提供:奈良新聞社

【地震】
伊賀上野地震
1854(嘉永7)年7月9日

嘉永七年六月大地震瓦版(個人蔵 写真提供:奈良市教育委員会)

奈良県を襲った過去の災害

木津川断層帯の活動によると考えられる大地震。

二次災害としてため池の堤防の決壊により土石流が発生し、古市町(現奈良市)で約150人が死亡したとされています。

■県内の死者 280人(諸説あり)
■県内の全壊家屋約700～800戸

台風第10号とそれに続く活性化した低気圧の影響で、数十年に一度の豪雨が3日間で2回も降りました。

相次ぐ豪雨での土砂崩れや吉野川の濁流にのみ込まれるなどして犠牲者が多かったです。また、王寺町や田原本町などでは広範囲で浸水被害が発生しました。

■県内の死者・行方不明者 16人
■県内の建物被害 1万3,530棟

大型で動きの遅い台風第12号の影響で、県南部を中心に記録的な大雨が降り、大規模な土砂崩壊や河道閉塞が多数発生しました。これにより、多くの犠牲者がでるとともに、家屋が流されたり、浸水したりする被害も発生しました。

■県内の死者・行方不明者 24人
■県内の建物被害 184棟
■避難者数 被災直後 938人

(今年7月22日現在 47人)

災害の種類ごとに、3つの「奈良県防災の日」等を制定しました。

9/3～4 奈良県土砂災害防災の日

8/1～3 奈良県水害防災の日

7/9 奈良県地震防災の日

伊賀上野地震で決壊した平尾池(奈良市)。普請の記念碑が今も残る

大地震が起きた場合の被害は？

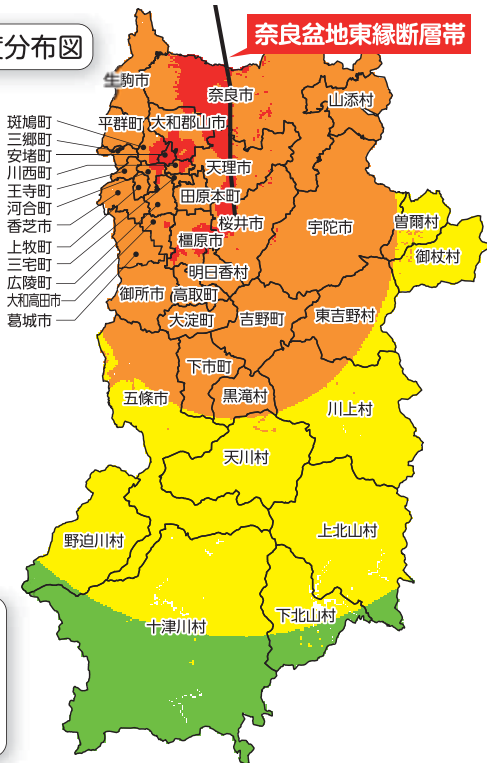
奈良県を襲う可能性のある大地震は、陸地の直下で起こる「内陸型地震」と日本列島沖の太平洋にあるプレート境界で起こる「海溝型地震」の2種類に分けられます。

そのうち、代表的な地震の被害想定は、次のとおりです。

内陸型地震 奈良盆地東縁断層帯地震の場合

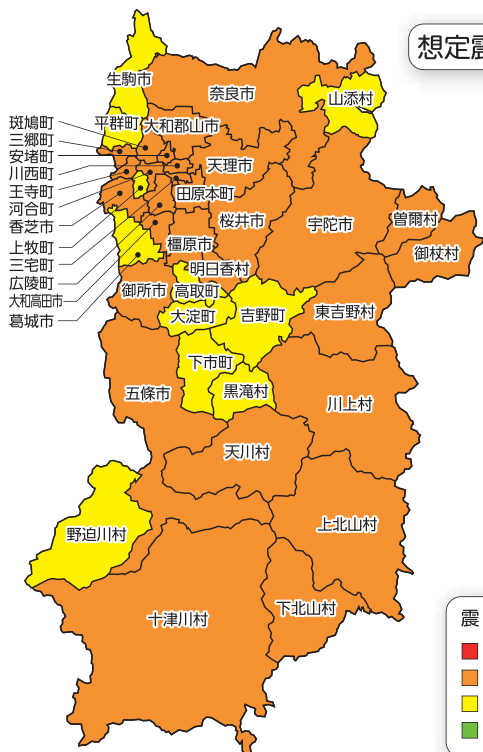
局地的に激しい揺れに見舞われます。大きな地震を引き起こす可能性のある断層は、右下図のように複数あり、それぞれに想定震度分布は異なります。

想定震度分布図



海溝型地震 南海トラフ巨大地震の場合

南海トラフを震源とするマグニチュード8〜9クラスの地震発生率は、今後30年間で70%程度とされています。被害が広域にわたるため、物流が滞り、食料、飲料水等の物資が不足することもあります。



南海トラフ巨大地震発生時の奈良県での主な被害想定(最大値)

マグニチュード(地震の規模)	9.1
死者数	約1,700人
負傷者数	約18,000人
住宅全壊棟数	約47,000棟
避難者数(地震の1週間後)	約29万人

奈良盆地東縁断層帯地震発生時の主な被害想定

マグニチュード(地震の規模)	7.5
死者数	約5,153人
負傷者数	約19,045人
住宅全壊棟数	約119,535棟
避難者数(地震の1週間後)	約435,074人

地図、表ともに内閣府発表「中央防災会議 南海トラフ巨大地震の被害想定について(第二次報告)」(平成25年3月18日)を基に奈良県が作成。

地図、表ともに第2次奈良県地震被害想定調査報告書(平成16年10月公表)より。

震度7

耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが多い。



耐震性が低い木造建物

震度6強

人が飛ばされることもある大きな揺れ。耐震性の低い木造建物は傾いたり、倒れるものが多い。



耐震性が低い木造建物

震度6弱

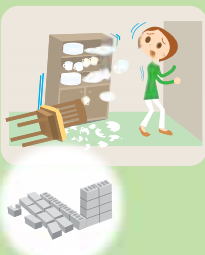
立っていることが困難。固定していない家具の大半が移動し、倒れたり、ドアが開かなくなることがある。



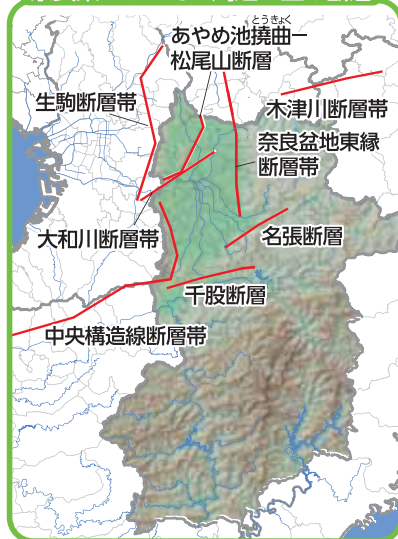
耐震性が低い木造建物

震度5強

食器類や本で落ちるものが多い。補強されていないブロック塀が崩れることがある。



奈良県およびその周辺の主な断層



第2次奈良県地震被害想定調査報告書(平成16年10月公表)より。

特集

地震が発生した時は 落ち着いて行動しましょう

テレビやラジオ、携帯電話などで、強い揺れを知らせる緊急地震速報を見聞きした時も、その前に地震の揺れを感じた時も、行動は同じです。

室内で

テーブルなどの下に隠れ、まずは自分自身の身を守りましょう。



決して無理はせず、落ち着いて行動しましょう。

車の中で

徐々にスピードをゆるめ、ゆっくりと左側に停車しましょう。

車を離れる時は、鍵は付けたままで、ドアロックもしないようしましょう。



スーパーやデパートで

手荷物やかごなどで頭を守り、商品の落下、ガラスの破片などに注意しましょう。

慌てて出口に向かわず、お店の指示に従って冷静に行動しましょう。



エレベーターで

停止装置が付いていれば、近い階で自動停止します。付いていなければ、全ての階のボタンを押し、止まった階で外に出ましょう。

閉じこめられたら、非常ボタンを押し、救助を待ちます。

屋外で

ブロック塀や自動販売機、電柱など、崩れたり倒れたりする可能性があるものから離れて、空き地や公園などに避難しましょう。



日頃から地震が 起きた場合の行動を 考えましょう

7月9日、県内の企業、学校、自治体などで、地震から身を守る行動の確認を行う、一斉地震行動訓練(シエイクアウト訓練)が行われ、8万2千人以上が参加しました。

地震が起こった時に備え、姿勢を低くして、机の下に隠れるなど、普段の生活の中で、安全行動を考えるきっかけとなりました。

①まず低く

②頭を守り

③動かない



社内で約60人の社員が同時に机にもぐった、大和ガス(株)本社(大和高田市)。社員の安否を確認するメールを送受信する訓練も行われました。

参加してみたいかがですか？

机の下は案外狭かったですね。今回の訓練に参加して、本当の地震の時、お客様が社内にはいた場合どう誘導するかなど、課題も見えてきました。日頃からの訓練が、非常に役に立つと思いました。

大和ガス(株) 榎田敏博さん



知事から ひとこと



紀伊半島大水害から3年が経過した現在も、避難生活を余儀なくされている方々がいらつしやいます。引き続き、避難者の皆さんが一日も早く通常の生活に戻ることができるよう、県、市町村や関係機関が一体となって復旧・復興に取り組んでいきます。

災害は、過去の歴史を学び、備えることが大切だと思います。ご家庭でも、できることからひとつずつ、取り組みを始めてみてください。

地域でも、「自分たちの家族やまちは自分たちで守る」という意識で、災害に備えましょう。



わが家の防災メモ

家庭では、1週間分以上の備蓄を確保しておきましょう。



非常持出品のチェック

記入して、家の中の見やすい場所に貼っておきましょう！

<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> 救急医療品	<input type="checkbox"/> 乳児用品
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 常備薬	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 予備の電池・電球	<input type="checkbox"/> 傷薬	<input type="checkbox"/>
非常食・水	<input type="checkbox"/> 胃腸薬	妊婦用品
<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> ばんそうこう	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> レトルト食品	<input type="checkbox"/> 脱脂綿	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 缶詰	<input type="checkbox"/> 包帯	高齢者用品
貴重品	<input type="checkbox"/> ヘルメット(防災ずきん)	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 現金	<input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 印鑑	<input type="checkbox"/> 衣類	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 預金通帳	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 保険証	<input type="checkbox"/> ろうそく・ライター	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 免許証	<input type="checkbox"/> ナイフ	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/>

避難カード 家族で情報を確認・共有しておきましょう。

非常用持出品を考える。
奈良教育大学にて。

緊急 連絡先	連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
	氏名	電話(連絡先・学校)	血液型	アレルギー
家族 データ	氏名	電話番号	住所	備考(家族との関係など)
	場所	住所	備考(連絡先、避難経路など)	
避難 場所	場所	住所	備考(連絡先、避難経路など)	

災害用伝言ダイヤル(171)を活用しましょう!

ママ、今△△小学校に避難しているよ。

被災地

171にダイヤル

▼ガイダンスが流れます▼

録音は**1** 再生は**2**

▼ガイダンスが流れます▼

被災地の方の電話番号を市外局番から入力

遠方の親戚など無事が確認できて安心したわ。

みんな無事だね!これから△△小学校に向かいます!

携帯電話やパソコンからインターネットに接続し、災害用伝言板などを利用する方法もあります。

- 携帯電話から 各社のトップメニューで「災害用伝言板」を選択
- パソコン・スマートフォンから 災害用伝言板「web171」

🌐 <https://www.web171.jp>

体験期間 1/1~1/3、毎月1日と15日、8/30~9/5